

熊野三山巡り

熊野本宮大社

ここが熊野本宮大社参道入口



参道が続く



正面は神門/左手には八咫鳥の幟が立っている





東御前(若宮)天照皇大神

御本社(證誠殿)家都美御子大神(素戔鳴尊の別名)

西御前(速玉宮)御子速玉大神
(結宮)熊野牟須美大神

当宮は熊野三山(本宮・新宮・那智)の首位を占め、
全国に散在する熊野神社の総本宮で、熊野大権現として
広く世に知られております。

御主神は家都美御子大神即ち素戔鳴尊と申し、
樹木を支配される神であり、紀国(木ノ国)の語源もここから
起つております。

大神は植林を御奨励になり造船の技術を教えられて外国との
交通を開かれ人民の幸福を囿られ、ともに生命の育成発展を
司られた霊神で第十代崇神天皇の御代に熊野連が当地に社殿を
造営して鎮祭したと伝えられております。

奈良朝のころから修験の行者が頻繁にここに出入りして修行し
ました。神威が広まりました。延元七年(約千年前)
宇多法皇の御幸をはじめ約三百年にわたり法皇、上皇、女院の
御幸は実に百數十回に及びました。

これが史上有名な熊野御幸であります。
これと前後して当時の神仏習合によつて御主神を阿弥陀如来と
いつて尊び、日本一といわれた霊験を仰ごうとする参詣者は全国
各地から熊野の深山幽谷を埋め、蟻の熊野詣とか伊勢に七度熊野に
三度どちらが欠けても片参りなどとうたわれるとともに全国に
御分社を祭り、その教は現在約五千教社を教えております。

その後源平の争乱、承久の変、南北朝の戦乱とさまざまの変災の
渦中にありながら、人心の信仰はますます高まり、当宮の神威は
熊野牛王おから十様の神符とともに全国に伝播して明治時代に
たりました。

現在の社殿は享和二年徳川家斉將軍の命によつて紀州侯治宝
卿が音無里(現本宮町大斎)の原指定文化財に建立されましたが
明治二十二年の大出水にあつて現社地に修造して遷座されたも
のであります。

この社殿のつくり方を熊野造と申しあげます。
なお旧社地は別社地と呼び、石祠二殿を仮宮として西方に
中四社下四社を東方に元境内撰末社を合祠してあります。

旧社地大斎原(おおゆのはら)の社殿絵図/この内、上4社のみがこの地に移された





八咫鳥やたがらす(由来)

熊野では八咫鳥を神の使者と言われています。三本足とは熊野三党(宇井・鈴木・榎本)を表わすとも言われ、当社では主祭神**家津美御子大神**(素盞鳴尊)の御神徳である**智・仁・勇**、又**天・地・人の意**をあらわしています。

鳥は一般に不吉の鳥とされてきているが、方角を知るので未知の地へ行く道案内や、遠隔地へ送る使者の役目をする鳥とされており、熊野の地へ神武天皇御東征の**砌**、天皇が奥深い熊野の山野に迷い給うた時、八咫鳥が御導き申し上げたという意があります。又、歴史上の一端より触れて述べれば源平合戦の折那須与一出身地(栃木県)鳥山城は鳥が金の御幣(神のお告げ)をこの地にもたらしたので築城したといわれています。

次に世界各国の一部を記せば、

◎ スカンジナビア

オジンの神の肩に止まった鳥が二羽、一つは思考、一つは記憶と名づけて毎朝二羽の鳥を放って、世界中のことを報告させたといわれている。

◎ 古代ギリシャ

鳥はアポロの神の標識。

◎ ツリンキート族

火を最初にもってきて、光を人にあたえたのは鳥であると伝えられている。

又、最近スポーツのサッカーが青少年、若い人々に人気を博している。日本サッカー協会のマークは八咫鳥です(明治時代にサッカーが日本に始まった。この頃から使用されているそうです)サッカー協会のマークに使用された意味は、考えるに目的とする相手チームのゴールをはずすことなく、きちんととらえて納めるという意ではないでしょうか。

尚、右の意より、当社では今も尚変わらず、

◎ 人の道開きの開運、人生、目的達成

◎ 現在地と目的地の間、無事に到達する意・海上安全・交通安全(車・二輪車等)旅行安全・通学安全の守護として仰がれています。

※ 八咫鳥のお祭りに関する祭典

毎年一月七日、夕開深き時刻(午後五時)に厳修斎行される(年始め牛王刷り初め)があり、当社の年中行事の中でも中心となるお祭りです。

熊野本宮大社社務所

神門を入ると熊野神社の神域で、上4社を祭祀する3つの社殿が並ぶ(左から第一・二殿、第三殿、第四殿)



全国にある熊野神社の総本宮である



熊野速玉大社

これは熊野速玉大社の神門



正面は上三殿/左手から第三殿の「証誠殿(しょうじょうでん)」、第四殿の「若宮(わかみや)」、「神倉宮」の3社相殿



向かって左手から第一殿、第二殿、摂社の奥御前三神殿、第三殿・第四殿・神倉宮の三社相殿(あいどの)、その右手には第五殿から第十二殿までの八社相殿と5棟、並んでいる/すべて戦後の再建



正面が速玉大社拝殿



この拝殿の後ろが速玉大社本殿/銅板葺熊野造



世界遺産の石碑





これは熊野御幸を行なった上皇たち



熊野御幸

中世宇多上皇(才五十九代天皇)の延喜七年(西暦九七〇年)から
玄輝門院の嘉元元年(西暦一三〇三年)までの三百九十六年間に
上皇、女院、親王を令せて御三千三方百單回に及ぶ
皇室の御参詣がありこれを熊野御幸と言って熊野三
山史上に不滅の光彩を放っている。

熊野御幸には、陰陽師に日時を占定させて、斎館で心身の
御精進を数日向行われて後に御出発になる。白河天皇の
天永元年九月の御幸には、総人数八百四十八、一日の食糧十六
石二斗八升、傳馬百八十五匹と「中右記」に記している。
御幸の道順は京都、住吉、和泉、紀伊半島海岸沿いに
南下して田辺、中辺路、本宮、熊野川を下って当大社へ
参拝、那智山雲取、本宮、往路コースを逆行して帰京
されるまで、およそ二千数日に及ぶ難行苦行の旅であった。
熊野御幸によって熊野信仰は公卿武士、庶民の向に
流布し、熊野水軍をもつ熊野三山の忠誠心を助長し、京と
熊野との文化交流、有名な熊野懐紙、幾多の名歌が詠じら
れるなど各方面に大きな影響を残している。

さて、これは御神木の榎(なぎ)の木の石碑他/国指定天然記念物



御神木 椰

熊野から世界へ捧げる平和の祈り

熊野は祈りの聖地として憧れの異界であり、「椰」の葉は霊威ある熊野高野のお守りとして古から大切にされてきました。

熊野速玉大社の御神木 椰は、樹齢約千年日本一の椰の大樹として、崇められています。昭和四十七年、沖縄が本土に復帰した年、

この神木の苗木が沖縄の地に植樹され、四十年後、各地の農林高等学校で発見されました。立派に伸びていくその姿に、沖縄の苦難の歴史が哀しくも感慨深く、当大社宮司のもとに

平和を願う心ある人々が集い、平成二十四年六月、「世界平和の祈り」が捧げられました。

平重盛公が國安かれとお手植えされた椰の御神木は、千年の時を刻んで平和を象徴する霊木となり、訪れる人々を見守り続けています。

どうか、心静かに手を合わせ、全ての命あるものを慈しみ、世界の平和をお祈り下さい。

根本熊野大権現 熊野速玉大社

これが御神木の榎の木



熊野那智大社

さてここが熊野三山三つ目の熊野那智大社



下を見るとこんな風景となっている/他の二つの大社に比べかなりの高所に所在する



二の鳥居



正面前方が那智大社拝殿



近づいて見たところ



大きな石柱が立っている/その右下に、ご案内の看板が立っている



御案内

こちらが熊野那智大社でございます。全国約四千余社の熊野神社のご本社でもあります。上皇・法皇方の熊野御幸は百十数度を数え、その後世に「蟻の熊野詣」と云う様に全国からの熊野詣が盛んになり、伊勢に七度・熊野に二度と云う謠も生まれました。

そもそも那智山の信仰の始まりは、神倭磐余彦命が那智の瀧を神として祀られたことに始まり、仁徳天皇の御代にここにお社をお造りしたのであります。

御祭神は熊野十三神（含む、飛瀧神）であり御主神は熊野夫須美大神と申し、伊弉冉神（いざなみのかみ）でございます。

修験道の霊場となつてからは「日本第一大霊験所・根本熊野三所権現」と崇め、熊野信仰の御本社としての篤い信仰が寄せられ、那智山熊野権現と申しました。

御祭神の夫須美神は「むすび」「結」で願望成就の信仰であり一時期「結宮」とも申しましたが、後に、官幣社となり今日では『熊野那智大社』と称し、熊野本宮大社・熊野速玉大社と共に「熊野三山」と申します。

御例祭は七月十四日です。
毎月一日・十四日・十八日と祭日には祭典を斎行します。

熊野那智大社

正面は第六殿(八社殿)/こちらにも説明板が立っている



熊野那智大社社殿 八棟

重要文化財

平成七年十二月二十六日

世界遺産

平成十六年七月一日

指定理由

歴史的価値の高いもの

- 第一殿 瀧宮
- 第二殿 証誠殿
- 第三殿 中御前
- 第四殿 西御前
- 第五殿 若宮
- 第六殿 八社殿
- 御縣彦社
- 鈴門・瑞垣

熊野那智大社は熊野三山の一つに数えられ中世以降は日本第一大霊験所・根本熊野三所権現として全国的に信仰された古社である。

社殿は東西横一列に配された第一殿から第五殿と、第五殿の正南方に並ぶ第六殿・御縣彦社からなる。各社殿は瑞垣で仕切られており、各社殿の正面には鈴門が開かれている。

第一殿から第六殿が嘉永四年から七年（一八五四）の建立、御縣彦社は慶応三年（一八六七）の建立である。

社殿はその規模が大きく良質で彫刻をほとんど用いない等、配置や形式に特徴があり、全国の神社建築に影響を与えた熊野三山の社殿形式を伝えるものとして、我が国の神社建築史上貴重なものである。

鈴門及び瑞垣は境内の景観を構成する上で重要である。

文化庁

熊野那智大社

和歌山県教育委員会

これはすぐ隣に所在する青岸渡寺側から拝殿奥の第一殿を見たところ



那智山青岸渡寺(せいがんとし)

こちらは青岸渡寺本堂(如意輪堂)/桃山時代再建の折表様式/重要文化財



西國第一番札所



さまざまな説明板が立っている



世界遺産の石碑



西国霊場 天台宗 那智山 青岸渡寺

第一番札所

補陀洛や孝うる波は三熊野の那智の御山にひびく流は瀧

当山は仁徳帝の頃(三一三―三九九)印度より裸形上人が熊野の浦に漂着、現在の堂の地に庵を結んだのに始まると伝えられている。その後、推古帝(五九三―六〇六)の時大和より生仏上人が来山し、玉椿の太木をもって、現在の本尊(御丈約四米)を彫り、裸形上人感得の親世音菩薩を胸仏として納め安置す。のち推古帝の勅願寺となり、那智霊場の中心として熊野信仰を育んできた。従って御本尊如意輪親世音菩薩の霊験を受けんとして、日夜礼拝修業する者その数を知らず、又天皇上天皇の尊崇も深く、殊に平安時代人皇六十五代花山上皇が滝の上の山中に庵を造り、三ヶ年御修業の後、当山より西国三十三ヶ所親音礼場巡拝の旅に出られた。当時より長きに亘り巡拝の寺として親しまれている。当山は古くより那智山如意輪堂と称していたが明治の神仏分離によってその形態が変り以来青岸渡寺と称するようになった。現在の建物は天正十八年、豊臣秀吉公が、発願再建されたもので、桃山時代様式の建物として南紀唯一の重要文化財である。

山内の主な建物は次の通り

本堂

天正九年堂宇焚焼同十三年(豊臣秀吉公)再建せしと発願し同十八年(落成)此時秀吉公日本(大門口奉納す。
(如意輪堂)
銘あり堂内の大門口(足なり)
(重要文化財)
面積、七四二平方米 (杉林造)

本尊

如意輪親世音菩薩 (秘仏)

宝篋印塔

元享二(三三二)建立(重要文化財)

鐘楼

鐘は元亨四年(三三六)月鑄造の銘あり。

大黒天堂

本尊大黒天は七福神を祀る。

三尊の塔

平安末期に建立されたが加増焼火に焼失。去る四十七年(全国)より再興し、再建。飛騨境現の水池に、千手観音を三尊に祀る。

写経蔵

全国信徒の奉納した写経を安置する御堂。

(宝物館)

滝宝殿

那智の歴史は古く千六百年前より初まりの長い間の文化の発展に寄与するところから、これらの什宝物及び出土品を取蔵している。

阿弥陀堂

信徒方々の遺骨を奉安する納骨堂

山門

昭和八年現在の地に再建。木造。銅葺。金剛力士(七王尊)蓮座作。

信徒会館

全国信徒の研修道場

尊勝院

中世は天皇上天皇の御幸由にして、当山最古の旅行僧屋敷。現在では信徒の宿泊所になっている。



正面中央に棧唐戸、左右間には蔀戸









身舎の周りの縁の縁束をそのまま伸ばした控柱が深い軒を支えて庇を形成する様式となっている



アップで見る/縁束を延ばした控柱が見てとれる





桃山時代の仏堂にしては木割が太く、装飾も華美でなく、中世の山岳密教本堂の面影を残しているという



これは元亨二年(1322年/鎌倉時代後期)造立の、流紋岩でできた高さ4.3mの宝篋印塔/重要文化財



鐘楼



梵鐘は元亨4年(1324年8月/鎌倉時代)の鑄造という





これは大黒天並びに七福神を祀る大黒天堂







これは昭和47年再建の三重塔と那智滝



那智滝



参考ホームページ

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Wk08.html>

<http://www.tb-kumano.jp/kumanokodo/sanzan/>

<http://www.bell.jp/pancho/travel/kumano%20sanzan/hongu%20taisha.htm>

http://www.genbu.net/data/kii/hongu_title.htm

<http://www.mikumano.net/meguri/singu.html>

<http://kamnavi.jp/ki/nanki/hayatama.htm>

<http://www.bell.jp/pancho/travel/kumano%20sanzan/hayatama%20taisha.htm>

http://www.yumemusubi.com/mori/jinja/wakayama/kumano_hayatama.htm

http://www.genbu.net/data/kii/hayatama_title.htm

<http://www.bell.jp/pancho/travel/kumano%20sanzan/nati%20taisha.htm>

<http://www.mikumano.net/meguri/nati.html>

http://www.yumemusubi.com/mori/jinja/wakayama/kumano_nachi.htm

http://www.genbu.net/data/kii/nati_title.htm

<http://japan-web-magazine.com/japanese/japan-wakayama-kumano-nachi-taisya1-japanese.html>

<http://www.geocities.jp/miniuzi0502/jiniadistant/wakayama/nachi.html>

<http://www.flow-stock.com/jisya-kinki/kumanonachi.html>

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Wk07.html>

<http://tabinokiroku.web.fc2.com/tabi99/99-3.html>

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/7460/wakayama-seigantoi.html>

<http://www.bell.jp/pancho/travel/kumano%20sanzan/seigan%20toii.htm>

<http://www.flow-stock.com/jisya-kinki/seigantoi.html>

<http://www.osumi.or.jp/sakata/nanki/natidaisya.htm>

<http://www.y-morimoto.com/saigoku/saigoku01a.html>

